

平成20年5月16日

各位

会社名 株式会社 安楽亭
代表者名 代表取締役社長 柳 時機
(コード番号 7562 東証第二部)
問合せ先 取締役総務人事部長 安部 一夫
(TEL 048-859-0555)

特別損益の計上及び業績予想との差異に関するお知らせ

当社は、平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の決算において特別損益を計上するとともに、平成20年3月期の業績予想（連結・個別）につきまして、本日の決算発表との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損益の計上について

下記のとおり、特別利益が発生しました。

(1) 個別特別利益

1. 固定資産売却益	4億40百万円	(中間期1億84百万円計上済)
2. 投資有価証券売却益	20百万円	(中間期20百万円計上済)
3. 受取立退料	2億38百万円	
4. その他	27百万円	
(特別利益計)	7億26百万円	(中間期2億4千万円計上済)

(2) 連結特別利益

1. 固定資産売却益	4億40百万円	(中間期1億84百万円計上済)
2. 投資有価証券売却益	59百万円	(中間期59百万円計上済)
3. 関係会社株式売却益	59百万円	
4. 受取立退料	2億38百万円	
5. その他	27百万円	
(特別利益計)	8億26百万円	(中間期2億44百万円計上済)

下記のとおり、特別損失が発生しました。

(1) 個別特別損失

1. 固定資産除却損	1億83百万円	(中間期1億25百万円計上済)
2. 減損損失	3億23百万円	(中間期1億94百万円計上済)
3. 賃貸借契約等解約損	2億6百万円	(中間期1億68百万円計上済)
4. 投資有価証券評価損	15百万円	
5. 貸倒引当金繰入額	1億74百万円	(中間期30百万円計上済)
6. その他	33百万円	(中間期29百万円計上済)
(特別損失計)	9億35百万円	(中間期5億49百万円計上済)

(2) 連結特別損失

1. 固定資産除却損	1億83百万円	(中間期1億25百万円計上済)
2. 減損損失	3億23百万円	(中間期1億94百万円計上済)
3. 賃貸借契約等解約損	2億6百万円	(中間期1億68百万円計上済)
4. 投資有価証券評価損	15百万円	
5. 貸倒引当金繰入額	1億77百万円	
6. その他	33百万円	(中間期29百万円計上済)
(特別損失計)	9億38百万円	(中間期5億18百万円計上済)

2. 通期個別の業績予想数値との差異について(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表数値 (A) (平成19年8月13日発表)	21,100	540	260	280
20年3月期実績 (B)	20,555	412	102	215
増減額 (B) - (A)	545	128	158	495
増減率 (%)	2.6	23.7	60.8	
前期(平成19年3月期)実績	23,233	758	41	378

3. 通期連結の業績予想数値との差異について(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表数値 (A) (平成19年8月13日発表)	24,100	560	165	290
20年3月期実績 (B)	23,499	391	48	287
増減額 (B) - (A)	601	169	213	577
増減率 (%)	2.5	30.2		
前期(平成19年3月期)実績	26,306	863	25	428

4. 差異の理由

(1) 個別業績予想との差異

売上高は前回予想に対し5億45百万円減少の205億55百万円となりました。これは、業種業態を超えた競争の激化や飲酒運転問題、また一連の「食品偽装」問題発覚による“食”への不信感などの社会的風潮等から厳しい経営環境が続いたこと、また、将来の営業利益の底上げと収益構造の改善のため、新規出店を今まで以上に慎重に進める一方、不振店舗17店舗の閉鎖、3店舗の売却、及び18店舗のFCへの転換により前回予想より店舗数が減少したためであります。

営業利益は前回予想に対し1億28百万円減少の4億12百万円となりました。これは、売上高の減少に加え、原油価格・穀物相場の上昇による原材料費の高騰及び米

国産牛肉の輸入量もまだ少ないこと等から原価率が計画通りには低下しなかったためであります。

経常利益は、前回予想に対し1億58百万円減少の1億2百万円となりました。これは、売上高の減少に加え、平成20年4月実行のシンジケートローンに関する手数料の発生等があったためであります。

純利益は、前回予想に対し4億95百万円減少し2億15百万円の純損失となりました。これは、財務体質強化のために行った不振店舗の閉鎖による賃貸借契約等解約損や減損損失等の特別損失が発生したことに加え、売却した書籍販売事業への長期貸付金に対し貸倒引当金を計上したこと、また下期に特別利益を想定していた固定資産譲渡が、サブプライムローン問題等の影響もあり来期にずれ込んだためであります。

(2) 連結業績予想との差異

連結業績予想との差異は、主に個別業績予想との差異のほか、食材加工販売事業におきましても、中国産食材から国産食材への切替えや食の「安全・安心」への対応などによる諸経費の増加によるものであります。また、書籍販売事業につきましては、ベストセラーとなる書籍が乏しく、書籍のケータイ小説化や教養新書の低価格化、オンライン音楽サービスの普及によるCD・DVDの販売不振の影響もあり、計画を達成することができませんでした。

(注) 上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上